

原燃・保安院の超危険な暴走を止めろ！

# 最大の弱点を突き、本格操業を遅延させた市民のガラス固化監視網

## 六ヶ所再処理工場・ガラス固化試験をめぐる1ヶ月間の運動の記録



福島老朽原発を考える会 K

六ヶ所再処理工場のアクティブ試験のガラス固化試験において、重大な欠陥が露呈し中断に追い込まれたのは昨年末であった。私たちは、これがアクティブ試験の最大の障害になっていることに着目し、全国の市民団体の方々と共に、1月14日の学習会と翌15日の要望書提出・保安院交渉を皮切りに、国会議員との緊密な連携の下、保安院・原燃の動きに即応し、保安院に対して要望書提出と交渉、抗議行動等を矢継ぎ早に行った。2月14日、核燃料サイクル安全小委員会が開催され、第5ステップ入りは強行されたものの、この間の行動の成果として、第5ステップでのガラス固化体の製造は、ガラス溶融炉の内部の点検結果と再発防止策の妥当性を小委員会が再チェックするまで開始できないという、予定外のハードルが課された。2月25日、原燃は、ガラス溶融炉内残存物の除去作業が3月下旬までかかると公表すると共に、工事計画変更届けを出し、竣工時期を2月から5月に遅延させた。これら成果に至る一連の行動を振り返ってみたい。

### ■ 1月14日 学習討論集会 1月15日 保安院要望書提出&交渉

正月早々から「六ヶ所再処理工場のアクティブ試験を憂慮する全国の市民」として保安院へ要望書を提出する動きが始まり、当会を含む14団体から賛同を全国に呼びかけた。1週間弱という短期間でありながら、126もの団体賛同を得ることができた。要望書は、ガラス固化工程のトラブル・実情についての情報公開と、トラブルが解決するまで再処理作業を直ちに止めるよう原燃を指導することの2点を求めるものであった。並行して仕事始めの7日から早速、川田龍平参議院議員事務所を通じて、保安院との交渉のセッティングを行った。

交渉の前日14日に、美浜の会の小山さんを招いて学習討論集会を開催した。約40名の方々の参加を得て、小山さんのレクチャーと活発な討論により、ガラス固化問題と交渉の焦点を明確にした上で交渉に臨むことができた。

交渉には大阪、岩手、宮城、首都圏各地から、消費者、宗教者、サーファーの方々を含め、多彩な顔ぶれが揃い、会場は30名を超える市民で溢れた。川田龍平、金田誠一、近藤正道議員も出席された。3名は以後3回全ての交渉に出席され、積極的に質問、主張していただいた。

相手は保安院・核燃料サイクル規制課の金城課長補佐等4名で、ほとんど金城氏が対応した。

本交渉の最大の成果は、第4ステップでA・B両系列の性能確認を行うという計画に変更はないと確認できたことであった。金城氏は、変更届けを受けていないだけでなく、そのような変更を認めないとも表明した。



アクティブ試験の今後については、第4ステップのガラス固化工程について原燃が性能確認結果を保安院に報告し、保安院はそれを核燃料サイクル安全小委員会再処理ワーキンググループにかけ、親の小委員会にもかけると明言。その後

第5ステップに入り、そこで保安院は現場に行って使用前検査を行い、規定どおりの速度で廃液の炉への注入ができるかどうかをA・B両系列について確認すると述べた。

また金城氏は、トラブルは事前に予期されたものだったことを認めた。東海再処理工場の熔融炉で明らかになった構造的欠陥が克服できずに、そのまま六ヶ所でも再現したのではないかという指摘を否定できなかった。

炉内のガラス材と廃液を抜き出した後の処理方法、欠陥ガラス固化体ができただけの場合の扱い、ガラス固化の粘性問題の実態、廃液が追加で必要となった理由、廃液の量とガラス固化体の本数、不良品の量を明らかにすることを求めたが、これら全てについて回答できず、宿題となった。

小委再処理WGが非公開であり、さらに、議事録ではなく議事要旨のみが、しかも1ヵ月後にしか公開されないことを追及したのに対しては、フランスとの2国間協定があるからと言うのみで、何ら正当な理由を示さなかった。

青森でも、東京での交渉に合わせて要望書提出の記者会見が開かれた。要望書は保安院を通じて小委員会の全委員に配られることになった。

1月23日には経産省別館前で街宣・申入れ行動、1月27日には日比谷野外大・小音楽堂で2千名規模の集会とデモが行われ、これらの行動の中でも、ガラス固化問題の重要性を訴えた。日比谷の集会では、川田議員からこの問題についてアピールがあった。

## ■ 2月4日 原燃報告と2月7日 保安院要望書提出&交渉

2月4日、原燃は、「ガラス固化設備の試験状況報告」を公表した。報告書の中で原燃は「第4ステップの試験項目については全て終了した」とした。しかしその内実は、2系列のうちA系列の性能確認しか行っておらず、しかも、A系列も、白金族元素問題が全くの未解決であることの確認ができただけである。報告書では、温度や速度などの、性能を確認する上で決定的な数値が、公開制限情報としてマスキングされていた。報告書は、申請なしでの勝手な計画変更を意味するものであり、1月15日交渉での保安院の見解に明確に反するものであった。しかし、保安院は2月8日に小委再処理WGを開催することを決定し、報告書を受け入れる方向で動いた。

市民側は、即座に緊急要望書を作成し、直ちに交渉に応じるよう要求。小委再処理WG前日の7日に交渉を実現させることができた。急遽の開催にもかかわらず30名を超える人が集まった。

対応は金城氏。現時点では、7月の計画からの変更はないが、外形上は要求を満たしているので報告を受理したと主張した。保安院の第4ステップでの要求は、A・B両系列の性能・処理能力の確認ではなく、使用前検査を受けられる状況にあるかどうかの確認だけであるとし、1月15日の見解よりも大きく後退した。報告書の中身については、小委員会が開催されるまで一切何もコメントをもっていないとの一点張りであった。

市民側は、保安院が計画破りの報告書が無責任に受理したことを厳しく追及し、報告書を突き返すべきだと迫った。2月14日の小委員会開催前に、報告書に対する保安院の見解を市民に明らかにし、議論する場を設けるように要求した。

## ■ 2月13日 保安院交渉

2月7日交渉での市民の要求が通り、小委員会前日の2月13日に、原燃報告書に対する見解、2月8日の小委再処理WGの議事要旨と資料について、議員と市民に説明する場が設けられた。常に秘密裏に行われ、議事録も非公開であった小委再処理WGの内容を公開の場で、しかも小委員会前に説明させることができたことは大きな成果であった。

前日の緊急の呼びかけにも関わらず約20名が集まった。対応は金城氏。小委再処理WG時に

保安院が出した原燃報告書に対する文書（『ガラス固化設備の試験状況報告』について（案））が配布された。文書は、A系列について、連続運転の確認はできたが、白金族管理はダメなので「追試」をさせること、ガラス固化製造を再開する前に点検報告させること、A・B両系列の試験結果を報告させた上で使用前検査を行うこととし、試験が上手くいっていないことを認めながら、これらを、第4ステップではなく、第5ステップで行うことが書かれたものであった。小委再処理WGでは、この方向性は了承されたということであった。

市民側からは、A系列ですら完全な失敗状態にあるのだから、第5ステップに先送りすることは許されないと厳しい追及がなされた。金城氏は、第4、第5ステップの境界はシームレスであるから計画変更申請は必要ないとし、ガラス固化で問題なのは安定性であり安全性は確保されていること、高レベル廃液が溜まっても安全に管理できることを主張し、第5ステップ入りを強行する姿勢を貫いた。原燃報告書から読み取れる、1100℃を切って欠陥ガラス固化体ができているのではないか、処理能力の基準を満たしていないのではないかとという問いに対する回答は全く示されなかった。

## ■ 2月14日 核燃料サイクル安全小委員会傍聴と抗議行動

この間の行動と事前の呼びかけが功を奏し、小委員会は非常に注目を集めた。朝9時半から20名を超える人が集まり、小委員会が開催される経産省別館前で、第4ステップ終了阻止を訴えるアピールとビラ撒きを行った。傍聴希望者は通常よりも格段に多く、100名近い人々が傍聴を申し込んだ。しかし、保安院は、50名分の傍聴席しか用意しなかった。会場入口前で、抽選に外れた人たちが、公開審議といたしながら傍聴できる人数を少数に制限する保安院の閉鎖的で官僚的な姿勢を厳しく追及するという騒然とした状況の中で、10時から小委員会が開催された。



原燃と保安院の報告に対して、委員から「落第寸前」、「科学的なデータを示した形できちんと説明すべき」等、厳しい意見が飛び交った。「1100℃以下で製造されたらどうなるのか」等、市民が各委員宛に出した要望書に沿う質問も出た。ガラス固化は全然上手くいっていないという空気が全体を支配していた。白金族元素堆積の防止策として、温度管理や炉内をかき混ぜることで防げるという見込みだけで乗り切ろうとする原燃に対する保安院の評価の甘さが指摘され、「十分な結果が未だ得られていない」という保安院文書の表現が、「具体性がなく十分ではない」と書き換えられた。堆積状況を確認する熔融炉内点検の結果、再発防止策の妥当性などを小委員会が再チェックする「追試」が課され、再チェックを受けるまでガラス固化製造が再開できないことになった。試験再開後も、使用前検査前にA・B両系列の試験結果を保安院に報告する義務が課された。

しかし、小委員会は第4ステップ終了を認めた。これを受け、小委終了後12時より、再び経産省別館前にて抗議行動を行った。多くの人々がアピールし、ビラを1800枚撒き切った。13時より保安院に抗議文を提出し、行動を締めくくった。

これら一連の行動により、ガラス固化が六ヶ所再処理工場の最大の弱点であることが、ますます明確なものとなった。今後も、市民のみなさんと国会議員と共に、ガラス固化監視網を維持・強化し、第5ステップの各段階ごとに保安院・原燃に厳しく圧力をかけていきたい。